

ChatGPT に聞いてみた

曖昧な言葉と責任回避

ChatGPT:

「曖昧な言葉と責任回避」というテーマは、日本社会の構造的な問題や人間心理のリアルを鋭く描ける非常に重要かつ奥深いテーマです。以下に、構造的・表現的・創作的な観点から要点を整理します。

✓ 1. 「曖昧な言葉」が責任回避に使われる構造

● 主語を隠せる日本語の特徴

- ・ 「～と思われます」「～の可能性があります」 → 誰が？何を根拠に？
- ・ 「記憶がない」「確認できない」 → 嘘ではないが、真実を語る責任も果たしていない。
- ・ 「誤解を与えたとすれば遺憾です」 → 実際のミスや過失は否定。

● 責任の「所在」より「空気」を重視する文化

- ・ 明言を避けて「総論賛成・各論不明」になりやすい。
- ・ 「責任を取る」と言って辞任するが、その後の実質的責任の所在が曖昧なままで。
- ・ 組織全体で「誰も悪くないことにする」圧力が働く。

✓ 2. よく使われる責任回避フレーズとその翻訳例

日本語の言い回し	本音・意図の翻訳
「ご迷惑をおかけして申し訳ありません」	「誰が何をしたかは言いませんが一応謝ります」
「記憶にございません」	「本当は覚えてるかもしれないけど認めたくなりません」
「確認中です」	「とりあえず今は逃げたいです」

日本語の言い回し	本音・意図の翻訳
「誤解を与えたとすれば遺憾で」「適切に対応してまいります」	「説明が悪かったかもしれないが内容は悪くないと思っています」「具体的には何も決めてないけど言葉だけでも誠意を見せます」

✓ 3. 小説・ドラマ・教材に展開する視点例

💡 小説のプロット例(社会派)

- 主人公は役所で働く若手職員。ある行政ミスをきっかけに内部調査に関わるが、上層部は「記憶がない」「記録がない」「適切だった」で幕引きを図ろうとする。
- 彼は組織の「責任のなすりつけ合い」「真実から目を背ける文化」に直面する。
- 最後に主人公は自ら記録を残し、あえて「誰が」「いつ」「何をしたか」を公開する勇気を持つ。

💡 教材・ディスカッションテーマ例(教育向け)

- 「記憶にありません」という答えが許されるのはどんなとき？
- 誠実な謝罪とは何か？
- 「責任を取る」とは、辞任だけで済むのか？
- 欧米との違いを比較して、日本語の特徴が影響しているかを議論する。

✓ 4. このテーマの本質

曖昧な言葉は、責任を逃れる盾にもなるが、真実を覆い隠す壁にもなる。

その言葉を「誰のために」「何のために」使っているのかを問うことが、社会にとっても、個人にとっても大切。